

情報の教養学

7月2日(火) 16:30~18:00

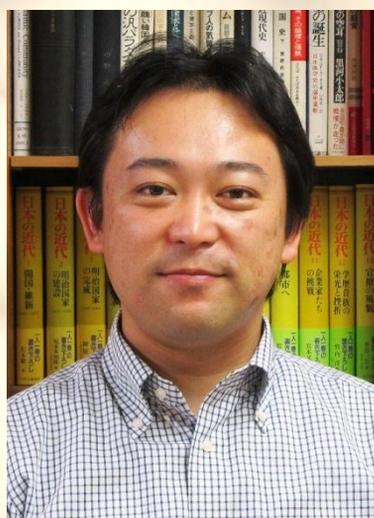
日吉キャンパス 来往舎シンポジウムスペースにて
学部生・大学院生・教職員対象 入場無料

社会を可視化し、考え、行動 するためのオープンデータ

国際大学GLOCOM主任研究員/

Open Knowledge Foundation Japan代表

庄司 昌彦 氏



1976年東京都生まれ。中央大学大学院総合政策研究科博士前期課程修了。修士(総合政策)。情報社会学、地域社会、オープンガバメント、社会イノベーション等について調査研究を行っている。2010-12年には内閣官房IT戦略本部「電子行政に関するタスクフォース」の構成員としてオープンガバメント・オープンデータ等に関する議論に参加するなど、政策研究と実践活動を往復している。主な著書(共著)に『地域SNS最前線 Web2.0時代のまちおこし実践ガイド』(2007年、アスキー)。

データジャーナリズム

誰でも情報を発信することができる時代、データの有用性とは・・・

「情報の教養学」とは——「情報」という言葉を聞くと「パソコン」を連想する学生が多いと思います。しかし、現在の世の中はそうではありません。今後の学生や社会人生活においてぜひ知っておきたい「情報」に関して、一流の講師が幅広い視点から「情報の教養学」講演会において紹介します。本年度の春学期は、情報を「データ」という観点に着目します。現在はTwitter、Facebook、ブログなどを通して、誰でも情報を発信することができます。発信されているデータは有用かもしれないし、残念ながら嘘かもしれません。そのようなデータの利用について、「データジャーナリズム」という立場をベースに紹介します。